

秦野市立大根小学校

研究テーマ: 思いや考えを伝え合い、学びをつなげるおおねっ子の育成
～子どものことばでつながる授業を通して～

1 実践の目的

本校では、学校教育目標である「かしこく やさしく たくましく 生きる大根っ子の育成」の具体目標「**才 創造的な知性と基礎的な能力を身につけ、自ら学び、考え、かしこく行動する子どもを育てます。**」に焦点を当て、「主体的に考えることを楽しむおおねっ子」の姿を目指した授業づくりに取り組んできた。

令和2年度は、「目指すおおねっ子像」を発達段階に応じて具体化し、「おおねっ子の花」【図1】を作成した。

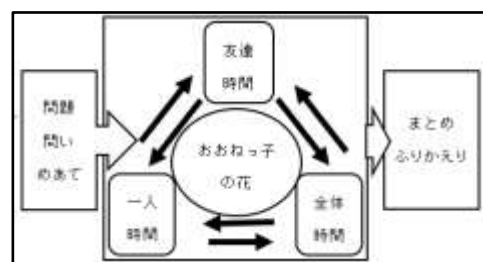
令和3年度は、研究を継続して実践を積み上げ、考えることについての児童アンケートの結果から児童の変容を探った。また、思考力の見取り方について、【図1】「おおねっ子の花」ノート記述を手がかりにしてどのように評価するか、その方法についての検討を行った。

令和4年度は、児童の変容をとらえるために、年度はじめと年度末にアンケートを行い、客観的データをもとに研究の成果や課題の把握に努めてきた。

こうした研究の取り組みから、『おおねっ子の花』を各学級の実態に合わせて活用し、教員全体で授業展開の共通意識をもって取り組めるようになってきた」といった成果を得ることができてきている。また、



「考える学習における基本的な授業展開」【図2】を作成し、全学年で考える時間の保証を意識づけてきた。



【図2】「考える学習における基本的な授業展開」

今年度は、学習指導要領にもある「どのように学ぶか」という学びの質を高めるために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、児童が自らの力で「分かるようになる」こと、そして、教師が説明・解説する授業から児童が「説明する」授業への転換をしていく必要があると考えた。学校教育目標と経営の基本方針の今年度の重点事項の「確かな学び かしこさを育てる教育」に焦点を当て、「まちがい」や「わからない」を大切に、子どもの言葉でつながる授業を通して、自分の思いや考えを伝え合い、学びをつなげるおおねっ子の育成を目指していくこととした。

2 実践の内容

○「おおねっ子の花」「考える学習における基本的な授業展開」を活用し、子どものことばでつながる授業を行った。また、それを常時掲示することで、教員や児童が意識して取り組んだ。

○授業づくりの視点として、以下の4点を意識しながら取り組んだ。

- ・考える時間（一人時間、友達時間、全体時間）の保障
- ・子どもの「まちがい」や「わからない」を大切にする
- ・教師の出どころを意識した授業展開
- ・考えを明確にすることを意識した指導。

○授業実践は、算数科でおこない、全学年で授業を実施した。

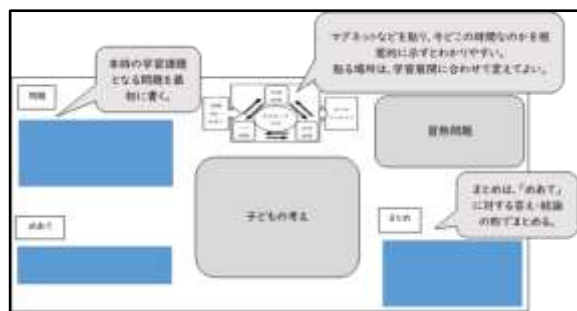
月	学年	教科・単元名
6	6年	算数科「分数÷分数」
9	2年	算数科「図をつかって考えよう」
11	1年	算数科「いろいろなかたち」
12	3年	算数科「分数」
1	4年	算数科「分数」
2	5年	算数科「単位量あたりの大きさ」

※横浜国立大学教育学部教授の池田敏和先生に2回ご参観いただき、指導・講評をいただいた。

※9月には横浜国立大学名誉教授の高木展郎先生を講師に招いて「思考力・判断力・表現力を高めるための授業づくり」を題にして講演会を行った。

○基本的な授業展開（考える学習）として、板書計画の基本的な配置を設定し、共通理解を図る。すべての場合で各項目が必要というわけではなく、目安となるものを示す。

【図3】



【図3】「考える学習における基本的な板書」

3 実践の成果

「おおねっ子の花」や授業実践については、教員全体で授業展開の共通意識をもち、実践を積み上げることができた。また、各教室に「考える学習における基本的な授業展開」を掲示することで、今どの時間（一人時間、友達時間、全体時間）なのかを分かるようにした。複数年に渡る研究の成果から、児童から「〇〇時間がほしい」といった声も聞こえ、児童の中に考える学習における基本的な授業展開が定着していった。

4 今後の展開

「おおねっ子の花」「考える学習における基本的な授業展開」については着実に定着してきていることから、「大根小スタンダード」としていき、今後、児童にどのように「見通しを持たせる」「目標に向かって粘り強く取り組む」ことを行えるようにするか研究を進めていく必要がある。

